

幼児教育・子育て支援



1. 幼児教育の充実

社会的な潮流と課題

少子化と夫婦共働きの傾向が強まるなか、「子ども・子育て支援法」が施行され、子育て支援のニーズが一層高まっており、幼児教育の面でも個別な支援や医療的補助などの様々な対応が求められています。

女性の社会進出が進むなか、子どもの預け先として幼稚園より保育園を選択するケースが増えており、幼稚園・保育園の運営方針の検討も求められています。

また、幼稚園教諭・保育士が誇りをもって働けるよう処遇改善等を図ることにより、子どもたちの育つ環境をよりよくすることも重要です。

解決に向けた町の取り組み

町でも、幼児期の教育や乳幼児期の保育環境の充実を図っているところです。

今後は、幼保一元化^{※1}や認定こども園^{※2}の設置及び民営保育園の新設とともに、学童保育の効率的な運営や老朽化した保育施設の改修等に取り組む必要があります。

基本方針

- 町民の保育ニーズを的確に把握し、待機児童ゼロを目指した事業を推進します。
- 安心して子育てができる環境整備に努めます。
- 子育てにかかる経済的負担の軽減について検討します。



西部保育園 粘土遊び



ホームスタート&子育てサロン事業によるパネルシアター

※1 幼保一元化：幼稚園と保育園の一元化を図ろうとする政策のこと。
※2 認定こども園：教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育園の両方の良さを併せ持っている施設のこと。

施策の基本方向

- (1) 幼児教育・保育の充実
- (2) 待機児童ゼロを目指した保育ニーズへの対応
- (3) 幼保一元化の検討
- (4) 幼稚園教諭・保育士の確保と研修制度の充実

主要事業

- ▶ 幼稚園運営事業
- ▶ 保育園運営事業
- ▶ 留守家庭児童保育所運営事業
- ▶ 幼保一元化の検討事業
- ▶ 教諭・保育士の研修事業
- ▶ 老朽化した施設の改修事業
- ▶ 特別保育充実事業
- ▶ 幼児教育センター事業
- ▶ 特別支援教育推進事業

協働の視点

将来に向けて待機児童ゼロを目指し官民一体となってこの問題に向き合っていきましょう。
保護者による幼稚園・保育園と連携した家庭の教育力の向上を図りましょう。

めざす目標

保育園・認定こども園の保育定員数
現状数値（令和2年度）・・・625人 目標数値（令和8年度）・・・783人
幼稚園での一時預かり事業利用者数
現状数値（令和2年度）・・・105人 目標数値（令和8年度）・・・80人

※ こども園化に伴い一時預かり事業を廃止する園があるため目標数値は減となる。



留守家庭児童保育所 おやつタイム



みのり幼稚園 運動会

2. 子育て支援の充実

社会的な潮流と課題

次世代の社会を担う子ども一人ひとりの成長を社会全体で応援するため、子育てにかかる経済的負担の軽減や、安心して子育てができる環境整備が求められています。

平成27年4月に施行した「子ども・子育て支援新制度」は、地域の子ども・子育て支援に関する量の拡充や質の向上を図ることで、すべての子どもが健やかに成長できる社会の実現を目指しており、少子化対策との両輪で、様々な取り組みが行われています。

「子ども・子育て支援法」の施行以降、より高まっている保育需要に対し、行政として保育を適正に供給することの責任が求められています。

解決に向けた町の取り組み

町では、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに向けて「函南町次世代育成支援行動計画」を策定し、次世代を担う子どもが健やかに育つ社会づくりを目指して、様々な子育て支援に取り組んできました。

一方、近年の少子化や核家族化の進行、地域コミュニティの希薄化等により、家庭や地域での子育て力の低下や育児に不安や悩みを抱く親が増加しています。また、女性の社会進出や就労形態の変化等により、多様化する子育てニーズに対応できる環境づくりが求められています。

こうした背景のもと、国では、「子ども・子育て支援新制度」が実施されています。町では、令和2年3月に「第2期函南町子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。この計画に基づき、子どもの健やかな成長と保護者の子育てを社会全体で支援する環境を整備するために、町が取り組むべき対策と達成しようとする目標等を明らかにし、計画的に推進する必要があります。



知恵の和館 夏休みわくわくまつり

基本方針

- 安心して出産・子育てができる環境の充実に努めます。
- 家庭・地域・企業が一体となって、次世代を担う子どもが健やかに育つ地域づくりに努めます。

施策の基本方向

- (1) 子どもが健やかに成長できる環境づくり
- (2) 子育て支援ボランティアの育成
- (3) 児童手当、こども医療費補助制度等の経済的支援の継続

主要事業

- ▶ ファミリー・サポート・センター事業
- ▶ 子育てふれあい交流センター事業
- ▶ ボランティア養成事業
- ▶ 支えあいガイドブック配布事業
- ▶ 子どもの安全確保事業
- ▶ 子育て世代への経済支援事業

協働の視点

地域との協働により講座や行事を実施しましょう。

子育て支援のボランティアに参加し、子どもたちと関わりましょう。

めざす目標

子育て交流センター相談受付件数（年間）
現状数値（令和2年度）・・・242件 目標数値（令和8年度）・・・400件
函南町ファミリー・サポート・センター会員数
現状数値（令和2年度）・・・119人 目標数値（令和8年度）・・・130人



子育て交流センター ハーフバースデー



子育て交流センター 親子ふれあい講座

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

学校教育

学校教育



1. 義務教育の充実

社会的な潮流と課題

Society5.0^{※1}に向けて、加速する社会の変化に対応するため、学校教育にも時代に合わせた変化が必要とされています。すべての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、令和の日本型学校教育を構築していくことが求められています。

また、日本の子どもの貧困率は年々上昇しており、児童生徒の学力に家庭状況等の社会経済的な背景が影響を与えています。

個別の指導を要する特別支援教育対象となる児童生徒や、外国にルーツを持ち日本語指導が必要な児童生徒は年々増加し、多様な支援と指導が求められています。いじめ、不登校、児童虐待等の諸問題は複雑かつ多様化し、学校だけでは対応が困難なケースも増えています。

解決に向けた町の取り組み

町では、多様化・複雑化する学校の諸問題に対し、学校機能の強化・支援に取り組んできました。

GIGAスクール構想^{※2}で整備したICT^{※3}環境を活用し、学習活動の一層の充実や教職員の働き方改革を推進します。また、ALT^{※4}の配置を継続するとともに、外国語教育を充実します。

特別支援教育の充実として、支援員の配置、支援学級及び通級指導教室の充実、ことばの教室の継続等、引き続き実施していきます。

学校機能強化・連携への支援として、教育支援センター及び幼児教育センターの充実を図ります。また、地域との共生、小規模校を活かした学校選択制の導入に向けた検討を行っていきます。

就学援助等の経済的な支援の継続や拡充を図ります。



端末を使用した授業風景

※1 Society5.0：人工知能(AI)などの技術革新による「超スマート社会」のこと。

※2 GIGA スクール構想：2019年12月に文部科学省が発表した教育改革案のこと。子どもたち一人ひとりに対して個別最適化された創造性を育む教育の実施や、情報通信や技術面を含めたICT環境を実現し、児童生徒1人1台の学習用端末やクラウド活用を踏まえたネットワーク環境の整備を行い、個別に最適化された教育の実現を目指す。「Global and Innovation Gateway for All」の略。

※3 ICT：Information and Communication Technologyの略語で情報通信技術（パソコン・電子黒板・校内LAN等）のこと。

※4 ALT：Assistant Language Teacherの略語で外国語指導助手のこと。

教育

学校教育

協働の視点

家庭・学校・地域社会がともに協力し、関係組織・機関との連携を図りましょう。

学校支援ボランティア活動に参加しましょう。

地域で子どもを見守りましょう。

めざす目標

「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合

現状数値（令和3年度）・・・92.3%
目標数値（令和8年度）・・・95.0%

「学校は信頼でき、地域とともに教育活動が進められている」と答える保護者等の割合

現状数値（令和3年度）・・・83.6%
目標数値（令和8年度）・・・95.0%

子どもたちが変化の激しいこれからの社会を生きるために必要な「知(確かな学力)・徳(豊かな人間性)・体(健康・体力)」バランスの取れた力の育成に努めている教師の割合

現状数値（令和3年度）・・・98%
目標数値（令和8年度）・・・100%

基本方針

- 「令和の日本型学校教育」実現のための指導体制づくりを推進します。
- 幼児教育の充実、幼保小中の連携に努めます。
- 学校力を強化するため組織運営の改善を進めます。
- 「地域とともにある学校」への転換を図ります。
- 次世代の郷土をつくり支える人材の育成に努めます。

施策の基本方向

- (1) 指導体制の充実と支援体制の強化
- (2) 「チーム学校^{※5}」の体制構築とマネジメント機能の強化
- (3) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育^{※6}の推進
- (4) コミュニティ・スクール^{※7}の推進
- (5) 地域が学校のパートナーとして子どもの教育に関わる
- (6) 郷土学習等の地域学校協働活動の支援

主要事業

- ▶ 学力向上に向けた指導・支援体制の充実と人材の確保
- ▶ 健康教育の充実と推進
- ▶ いじめ・不登校・問題行動等への対応力強化
- ▶ 道德教育の充実と推進
- ▶ 特別支援教育及び発達に課題のある児童・生徒への支援指導の強化

※5 チーム学校：教員が教科指導や生徒指導に集中できる仕組みの構築を目指した考え方。

※6 インクルーシブ教育：障害のある者が、その能力等を最大限に発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とする目的の下で、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みのこと。

※7 コミュニティ・スクール：学校運営協議会制度のことで、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

学校教育

2.教育環境の整備

社会的な潮流と課題

昭和40年代から50年代に建築された教育施設は全国的に多く、それらの施設が一斉に更新時期を迎え老朽化対策や長寿命化対策を余儀なくされています。

当町においても例外ではなく、施設の耐震化はもとより老朽化に伴う改修や更新は必要不可欠となっており、長寿命化対策を計画的に行うことや快適な生活空間を確保することが求められています。学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす重要な空間であり、安全で安心して学べる快適な環境づくりが必要です。

急激な社会の変化に伴い、子どもたちが成長とともにつまづく場面が多様化してきました。また、新型コロナウイルス感染症感染防止対策により、学校生活や子どもたちの日常は大きく変化しました。そのようななかで、子どもたちの多様化、複雑化する課題への適切な教育環境の整備が求められています。GIGAスクール構想による個別最適化の学びや協働的な学びの充実は、これからの共生社会を生きていく子どもたちが育つためには欠かせません。そのためには、さらなるICT環境整備並びに支援体制の確保と充実が必要であるといえます。

解決に向けた町の取り組み

町の教育施設は建築から35年以上経過している建物がほとんどで老朽化が著しく、現在、小中学校7校中校舎3校の大規模改修が完了していますが、引き続き体育館や給食棟を含め教育環境の改善に取り組みます。

児童・生徒・教員に対して、一人一台の端末を配備し教育環境のICT化を推進していますが、すべての教員がICT分野における技能を習得し、効率的に授業に活用できるよう、その支援に努めます。

精密機器の耐用年数は他の製品と比べ短く、またその技術革新のスピードはめまぐるしいものであります。ICT化の推進には、機器の更新や配備が必要不可欠なため、継続的な環境整備を行います。

教員の校務を効率化し、児童生徒と向き合う時間を増やすため、支援が可能なシステムや教材の確保に努め、効率的な運用を図ります。



端末を使用した授業



桑村小学校と丹那小学校の遠隔授業

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

学校教育

基本方針

- 学校施設、設備の充実による安全安心、多様な学びに対応できる教育環境をつくります。
- 学校施設長寿命化計画をもとに、優先順位をつけて、計画的に大規模改修を行います。
- 学校におけるICT教育環境整備と同時に教員研修を行い、指導力を育成する体制を整え強化していきます。

協働の視点

学校支援ボランティア活動に参加しましょう。

学校の環境整備活動に参加しましょう。

学校設備や備品は大切に扱いましょう。

地域行事に積極的に参加しましょう。

めざす目標

小中学校校舎老朽化による大規模改修完了校数（全7校中）
現状数値(令和3年度)・・・3校
目標数値(令和8年度)・・・5校

授業における端末使用率（全7校の平均値）
現状数値(令和3年度)・・・67.4%
目標数値(令和8年度)・・・95%

施策の基本方向

- (1) 安全で安心な次世代の教育環境づくりのための施設整備や衛生対策の充実
- (2) 設備・システムの整備と同時に各学校教員の研修や連携
- (3) 継続的なICT教材や端末の確保

主要事業

- ▶ 大規模改修等による安全・安心・快適な環境づくり
- ▶ ICTを活用した教育活動の推進
- ▶ トイレの洋式化
- ▶ 学習環境及び学校の周辺整備
- ▶ 学校給食費の公会計化



大規模改修後の函南中学校

社会教育



1. 生涯学習の推進

社会的な潮流と課題

生涯学習は、人々が自己の充実や生活の向上のため生涯を通じて行う活動のすべてを示します。

国の中央教育審議会で、新しい時代を切り開く生涯学習の振興策として「知の循環型社会」の構築が提言されました。社会・経済の変化に伴う学習需要への対応と、学習者自身の技能・経歴の向上や社会制度の基盤である人材育成につながるなど、重要な意義を持つ生涯学習は、社会・経済の発展が期待されます。

解決に向けた町の取り組み

町民一人ひとりが、生涯にわたって自ら学ぶとともに、学んだ成果を活かして自己実現を図る生涯学習社会を推進することが重要です。町では青少年学習事業、成人学習事業等を実施し、年代に合わせた多様な学習機会を提供しています。

自発的な生涯学習を支援するために、ボランティア講師を登録し、紹介することにより町民に自身の学習成果やキャリアを活用する機会や場を提供しています。



函南町文化祭（発表の部）

基本方針

- 町民の各年代における多様な学習ニーズに対応した各種講座・イベントを開催します。
- 自らの学習や経験で身につけた知識と技能を活かし、人に教えることによりさらに学ぶというサイクルの活性化により、「知の循環型社会」の構築を図ります。
- 町民の学びの成果発表の場として、文化祭を開催します。
- 生涯学習のきっかけづくりとして、かなみ生涯学習塾、チャレンジ大学を開催します。
- 町民の生涯学習推進のため、活動しやすい環境づくりを進めます。
- 快適な学習環境を提供するため、文化センター及び各施設の計画的な維持管理に努めます。

施策の基本方向

- (1) 多様なニーズに応える学習機会の拡充
- (2) 学習の成果を活かす発表の場の確保
- (3) 文化センターを中心とした学習環境の適切な維持管理と整備充実
- (4) 生涯学習指導者及び講師の確保



函南町文化祭（展示の部）

主要事業

- ▶ ライフステージに合わせた生涯学習事業の充実
- ▶ ボランティア講師の人材バンクの促進及び活用
- ▶ 自治会、子ども会、スポーツ団体、ボランティア団体等が実施する社会教育活動、地域活動等への支援事業の推進
- ▶ 生涯学習活動推進のための拠点施設の整備充実



デッサン教室（生涯学習塾）



チャレンジ大学

協働の視点

ボランティア講師の人材バンクを利用し、自治会主催イベント等への講師派遣を促し、地域での学習機会を創出しましょう。

社会教育活動、地域活動等へ積極的に参加しましょう。

生涯学習を通してともに学ぶ仲間に出会い、人と人のつながりを深め広げましょう。

めざす目標

文化センター利用者数
現状数値（令和元年度）・・・ 63,505人
目標数値（令和8年度）・・・ 80,000人

※ 文化のプラザを含む



初心者のためのやさしいギター教室（生涯学習塾）

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

社会教育

2. 青少年健全育成の充実

社会的な潮流と課題

情報化やグローバル化の進行など、青少年を取り巻く環境は急速に変化しており、多様な社会に適切に対応できる能力を育成することが課題とされています。

また、核家族化やインターネットの普及などにより、人と人とのつながりが希薄化し、地域や家庭における教育力を向上するための支援が求められています。

解決に向けた町の取り組み

青少年が健全に成長できる環境を守るためには、地域社会が一体となって、各種活動を推進することが重要です。

町では、学校、地域、家庭、関係機関などと連携して、あいさつ運動やパトロールを継続的に実施しています。また、青少年健全育成活動や家庭教育支援などを行い、青少年の健やかな成長を支援しています。

基本方針

- 心豊かな青少年を育てるため、家庭や地域社会が一体となって青少年健全育成に努めます。
- 青少年に学習・交流の場と機会を提供し、教育相談・指導体制の充実に努めます。



あいさつ運動

施策の基本方向

- （1）青少年健全育成活動の充実
- （2）地域間・地域における交流
- （3）各関係機関との連携

主要事業

- ▶ 青少年の地域行事への参加促進
- ▶ 青少年健全育成大会、体験活動、学習活動、サークル活動の充実
- ▶ 青少年の健やかな成長を阻害する要因を排除するための活動への支援
- ▶ 青少年の健やかな成長を見守るための体制整備
- ▶ 家庭教育支援や親子共同体験活動の実施

協働の視点

青少年に関わる有害環境のない社会を目指しましょう。

地域の子どもは、地域で育てましょう。

青少年育成活動に積極的に参加しましょう。

地域からの声かけやあいさつを推進しましょう。

めざす目標

あいさつ運動参加者数
現状数値（令和元年度）・・・1,250人 目標数値（令和8年度）・・・1,500人



ながら見守りステッカー

教育

社会教育

3. 男女共同参画社会の推進

社会的な潮流と課題

平成27年度に、「女性活躍推進法」に基づく特定事業主行動計画が策定され、女性の社会進出が求められています。

子育て支援の充実、介護支援の充実、生涯にわたる健康支援等とともに、セクハラ防止・女性リーダーの育成・審議会等委員への女性の登用等、多くの分野にまたがり推進されています。

また、L G B T※¹を始めとする多様な人が、互いを認め合える、豊かで活力ある社会の実現が求められています。

解決に向けた町の取り組み

男女共同参画社会の形成は、学校・職場・地域社会それぞれで取り組むことが重要です。

社会を構成するすべての人が、互いにその人権を尊重し責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が求められています。

町でも「第2次函南町男女共同参画計画」の見直しを行い、新たな取り組みを推進していきます。

基本方針

- 町の各種事業をはじめとして、あらゆる機会を捉え、性別による固定的役割分担意識や社会慣行の見直しなどを率先して行います。
- 男女共同参画の視点を取り入れた施策の展開を行うとともに、審議会等への女性登用・参画を促します。



父と子のパン作り教室（男女共同参画学習事業）

※1 LGBT: レズビアン（L）、ゲイ（G）、バイセクシャル（B）、トランスジェンダー（T）の頭文字をとった単語。セクシャル・マイノリティー（性的少数者）の総称として使用される。

総 論

1 将来都市像の実現に向けて

2 基本計画の施策体系

3 後期基本計画の取り組み

基本目標1
環境・防災

基本目標2
社会基盤

基本目標3
健康・福祉

基本目標4
教育

基本目標5
産業

基本目標6
交流・にぎわい

教育	社会教育
基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり	

4.情報拠点としての図書館の充実

社会的な潮流と課題	解決に向けた町の取り組み
平成22年文部科学省に「国民の読書推進に関する協力者会議」が設置され、読書環境の現状分析や読書意識を高める取り組みの検討が行われるなど、国をあげて読書活動の推進に取り組む契機となりました。 さらに、図書館を取り巻く社会環境の変化として電子書籍の台頭が顕著となっています。 令和元年には「読書バリアフリー法」が制定され、図書館においても障害のある人たちが読書しやすい環境を整備することが求められています。 令和2年からは新型コロナウイルス感染症対策に伴い、非来館型、非接触型サービスが求められるようになり、図書館運営は大きく変化しました。 令和3年には「著作権法の一部を改正する法律」が公布され、2年以内には保証金支払いが義務付けられたうえで、著作権の一部分において図書館の蔵書を電子データ化し、利用者にメールで送信できるようになります。 静岡県でも「読書県しずおか」を掲げ、読書推進に取り組んでいます。今後の課題としては、読書を通じて文化の向上に努め、人に優しいまちづくりのために、赤ちゃんから高齢者までの生涯にわたる学びを支える読書活動の推進をさらに高めていくことです。	町民の知への要求が高まり、知的要求を満たす手段が多様化してきたことで、図書館に求められる役割や機能が変化してきました。また、感染症対策にも留意が必要となりました。 町では、平成25年の函南町立図書館のオープンと同時に、「読書のまち・かななみ」を宣言しています。 また、読書の支援だけでなく、問題解決に必要な資料・情報の提供、蔵書資料の有効活用等学習活動支援も行っています。加えて、広報紙・図書館ホームページ・館内特集展示等を通じて、積極的に情報発信を行っています。地域資料のデジタル化を進め、図書館ホームページでの公開も行っています。 「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行を受けて策定した「函南町子どもの読書活動推進計画」に基づき、ブックスタート^{※1}事業、おはなし会、小中学校児童生徒の図書館見学及び中学生・高校生の職場体験等を実施し、学校との連携も図っています。 また、「障害者差別解消法」の施行を受けて町では、障害者及び高齢者を対象とした「図書館資料宅配サービス」を開始し、一層のサービスの充実を図っています。

読書のまち・かななみ宣言

読書は、わたしたちの心を豊かにし、人生をより深く生きるための知恵をもたらしてくれます。読書を通じて、文化の向上につとめ、人にやさしいまちをつくりましょう。生涯にわたり、読書を楽しむ人があふれるまちをめざして、函南町はここに、「読書のまち・かななみ」を宣言します。

- ・親子や家族、みんなで本を読みましょう。
- ・保育園や幼稚園の子どもたちは、絵本とともだちになりましょう。
- ・児童や生徒は、たくさん本に親しみ、読書習慣を身につけましょう。
- ・地域のことを知り、人生を深く味わうために、本から学びましょう。
- ・町ぐるみで、読書に親しむ環境を作りましょう。

平成25年4月 函南町

※1 ブックスタート：乳幼児相談などの機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動。

教育	社会教育
基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり	

基本方針	主要事業
● 知識と情報の拠点として図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実を図ります。 ● 利用者からの様々なニーズに応じて、問題解決に必要な資料を収集し、情報提供に努めます。 ● 「函南町子どもの読書活動推進計画」に基づき、図書館と学校・地域・家庭との連携を強化し、推進体制の整備・充実に努めます。 ● ボランティア等に活動の機会や場所を提供していくとともに、協力体制を強化し、活動の支援を行います。加えてボランティアのスキルアップを目的とした研修を開催していきます。 ● 多世代交流の場として、他機関と連携し、交流の場を提供していきます。 ● 快適な利用環境を維持していくとともに、急速に進んでいる情報媒体の多様化に対応できるようシステムの整備を図ります。併せてデジタル情報サービス提供の可能性について、調査・研究を進めます。	▶ 図書館資料の収集・保存と情報提供 ▶ 「函南町子どもの読書活動推進計画」事業の推進 ▶ ライフステージに合わせた読書活動の推進 ▶ 図書館資料の電子情報化の推進
協働の視点	
図書館ボランティアに登録し、積極的に参加しましょう。 ルールやマナーを守って図書館を利用しましょう。	
めざす目標	
図書館の児童図書蔵書冊数 (12歳以下の子ども1人あたり) 現状数値(令和2年度)・・・9.4冊 目標数値(令和8年度)・・・10.0冊	
図書館貸出カードの登録者の図書館利用率 現状数値(令和2年度)・・・58.5% 目標数値(令和8年度)・・・60.0%	

- 施策の基本方向
- (1) 資料収集・除籍方針に基づいた計画的な蔵書構築
 - (2) 赤ちゃんから高齢者まで、様々なニーズに合わせた図書館サービスの充実
 - (3) 他機関と連携し、地域に必要な情報の発信
 - (4) 効率的な管理システムの構築と環境整備
 - (5) 図書館資料の電子情報化の推進
 - (6) ボランティア活動の支援



高校生連携事業（寄せ植え）



図書館見学

5. スポーツ・レクリエーションの推進

社会的な潮流と課題

スポーツは、人格の形成・体力の向上・健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化やスポーツ産業の広がりによる経済的効果等、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成するうえで欠かすことができません。

しかし、令和2年、新型コロナウイルス感染症の出現は人々の生活に大きな影響をもたらしました。特に感染リスクが高いとされるスポーツは、様々な制限を強いられ、活動もままならない状態が続き、スポーツの機会が奪われました。各区では運動会等の行事も中止され、地域をつなぐスポーツの機会が減り、地域社会の希薄さに拍車をかけ、スポーツのもたらす喜びや楽しさを共に感じる機会が減少しています。

今後は、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえつつ、地域をはじめ、人々がスポーツをしやすい環境、活動の機会を提供し、スポーツを盛り上げていくことが必要と考えられます。また、この機会に、新たなスポーツの形の構築も求められます。

解決に向けた町の取り組み

町では、「グラウンドゴルフ大会」、町スポーツ推進委員会との連携による「ベタンク大会」や「ニュースポーツ大会」等を開催しています。

「スポーツのまち函南」宣言に基づき、赤ちゃんから高齢者・障害のある人まで、様々なスポーツに関わることができるような場の提案、提供を目指し、函南運動公園を始めとした既存の体育施設を、より効率的に活用していくことが期待されています。

一年遅れとなりましたが、国内で開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の日本人選手の活躍に、国内でのスポーツへの関心は高まっています。魅力あるスポーツの推進や、トップアスリートを目指す人材の育成を目指します。

基本方針

- スポーツ・レクリエーションのための整備を行い、町民・民間が施設を利用しやすい環境づくりに努めます。
- スポーツ推進計画に基づき、アクションプランの達成を目指します。
- スポーツを「する・みる・ささえる」を醸成させるプログラム作成に取り組みます。
- ニュースポーツの体験教室・大会を開催し、ニュースポーツの推進・普及を行います。
- 函南運動公園を利用したイベントを実施します。
- 函南町スポーツ推進計画後期計画（令和元年度～令和5年度）の目標達成に向け、スポーツの推進を図ります。



駅伝練習会



グラウンドゴルフ大会

施策の基本方向

- (1) 既存体育施設等の効率的・効果的な維持、管理
- (2) スポーツ活動の充実

主要事業

- ▶ 函南町スポーツ推進計画アクションプランの実行
- ▶ 体育施設整備事業の促進
- ▶ 町民参加型スポーツイベントの充実

協働の視点

生涯にわたりスポーツを楽しめる環境をつくりましょう。

町民ひとり1スポーツの実現を目指しましょう。

めざす目標

運動公園利用者数
現状数値（令和元年度）・・・40,650人 目標数値（令和8年度）・・・50,000人



ニュースポーツ体験教室

「スポーツのまち函南」宣言

わたくしたち函南町民は、スポーツの振興を図り、スポーツを愛し、健康でたくましい心と体をつくり、夢と希望のある、明るく元気なまちづくりを積極的に進めるため、ここに「スポーツのまち函南」を宣言します。

- 1 スポーツに親しみ、赤ちゃんから高齢者・障がいのある人まで、健康で元気に生活できる、生涯スポーツのまちを目指します。
- 2 スポーツを楽しみ、夢や目標に向かって努力する心を育み、青少年健全育成のまちを目指します。
- 3 スポーツに励み、日本や世界に向けたトップアスリートを目指す人材を育成し、夢と希望のあるまちを目指します。
- 4 スポーツを広げ、支え、世代間・地域間の交流を図り、明るく活力あふれるまちを目指します。

函南町はここに「スポーツのまち函南」を宣言します。

平成28年11月6日 函南町

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

社会教育

6. 芸術・文化の振興と文化財の継承

社会的な潮流と課題

芸術・文化は、社会情勢の変化に伴い、学術・教育的な役割や価値、地域活性化、観光資源としての役割など、様々な需要が生じています。その魅力の向上や周知を図ることで、教育、まちづくり、観光等に生かしながら、保存、活性化、そして後世への継承が求められています。

一方、少子・超高齢化や単身世帯の増加等の影響により、地域コミュニティの衰退と芸術・文化の担い手不足が指摘されています。

解決に向けた町の取り組み

芸術・文化に親しむための環境整備、活動支援の推進が重要であり、町に住む人々が愛着と誇りをもてるような行事の充実にも努め、サークル活動・自主的活動を通して、芸術・文化を創造する機会の充実を図る必要があります。

町内には多くの文化遺産が点在し、我が国の歴史・文化を理解するうえで重要なものも含まれています。それら文化財・文化的資源を指定文化財または登録文化財として保護し、活用を図っています。

なお、文化財の調査研究、保存、公開活用の責務を果たすには専門的な知識と経験が必要となっています。



町指定天然記念物「火雷神社断層」



町指定民俗資料「桑原西国三十三所観音霊場」

基本方針

- 町民の文化活動が活発に行われるよう、文化施設や文化団体・企業等、文化を支える様々な主体が活動しやすい、環境づくりを進めます。
- 仏の里美術館等の活用により芸術・文化を継承します。
- 仏の里美術館を案内するボランティアガイドの養成・活用を行います。
- 文化財保存活用地域計画の策定にかかる検討を進めます。

施策の基本方向

- (1) 芸術・文化活動の育成の推進
- (2) かなみ仏の里美術館を始めとする各種生涯学習施設の維持管理
- (3) 郷土芸能・伝統行事への支援
- (4) 各種イベントの開催
- (5) 文化財の指定・登録・保護
- (6) 文化財にかかる資料の収集、調査、研究及び成果の公開
- (7) 文化財の維持管理に要する費用の一部補助
- (8) 所有者または管理団体による文化財活用事業への支援等

教育

基本目標4 生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり

社会教育

主要事業

- ▶ 地域の伝統文化の継承と育成及び支援事業
- ▶ 指定文化財の保存整備事業
- ▶ 文化財付随施設の改修・整備
- ▶ 指定文化財解説看板の多言語化サインの整備
- ▶ 静岡県GISシステムの活用促進

協働の視点

ふるさとの宝である文化財を守り、継承し、後世に伝えていきましょう。
文化活動へ参加し、人の和を広げましょう。
文化活動の成果を発表する場に積極的に参加しましょう。

めざす目標

仏の里美術館入館者数
現状数値（令和元年度）・・・17,666人
目標数値（令和8年度）・・・25,000人



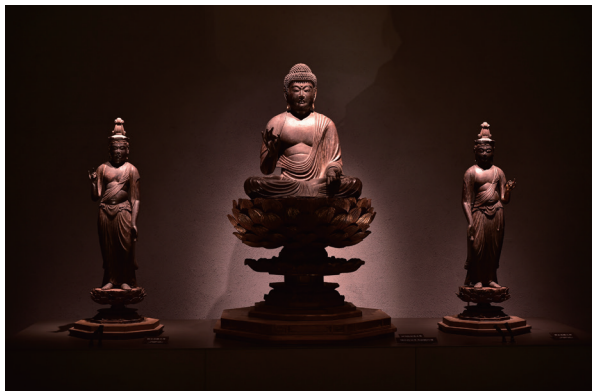
かなみ仏の里美術館



かなみ仏の里美術館 資料展示室



県指定有形文化財「木造薬師如来坐像」
「木造十二神将立像」



重要文化財「木造阿弥陀如来及両脇侍像」